

回数	散布時期	対象病害虫	薬剤名	倍率 (水100%当り薬量)		収穫前日数	回数	10a当 散布量		
1	発芽前	カイガラムシ類・ハダニ類	水 スプレーオイル 又は ハーベストオイル	50 倍 50 倍	98 ℓ 2 ℓ 2 ℓ	発芽前 発芽前	— —	200 ℓ	1. 削り取った病斑及び被害枝は適切に処分する。 2. 切口のゆ合促進のため、せん定直後にトップジンMペーストを塗布する。 3. 赤星病防除のため、付近のかいすかいぶき、たまかいすかいぶき、はいびゃくしん（そなれ）などを伐採 処分し、植栽しない。	
2	発芽前	黒星病・赤星病・輪紋病	オーソサイド水和剤80	600 倍	166 g	3日前	9回以内	200 ℓ	4. 前年ハダニ類が多かった圃地は、必ずスプレーオイル等を散布する。 5. スプレーオイル又はハーベストオイルを散布した場合は、次回散布まで7日～10日間は間隔をあけること。 6. 展葉前の防除は、防除機の風圧を上げ過ぎないように注意する。	
3	発芽7日後	黒星病・黒斑病	オキシラン水和剤	600 倍	166 g	3日前	9回以内	200 ℓ		
		ハマキムシ類・クワコナカイガラムシ シンクイムシ類	サイアノックス水和剤	1,000 倍	100 g	45日前 (無袋栽培)	3回以内	200 ℓ		
黒 星 病 重 点 防 除 時 期	4	開花直前	展着剤(ハイテンパワー)	5,000 倍	20 m l				250 ℓ	
			黒星病・輪紋病・黒星病・赤星病	スコア顆粒水和剤	2,000 倍	50 g	14日前	3回以内		
			黒星病・黒斑病・輪紋病・うどんこ病	ヘルコート水和剤	1,500 倍	66 g	14日前	5回以内		
	5	交配直前	黒星病・心腐れ症（・胴枯病菌）	トップジンM水和剤	1,500 倍	66 g	前日まで	6回以内	250 ℓ	1. 朝つゆが上がってから散布する。 2. 赤星病の発生が多い時は、1000倍バシタック水和剤75（収穫60日前/5回以内）を散布する。 ※ 推奨葉面散布石灰資材例：ハイカルティ、ストビットII 等
	6	落花直後	赤星病・うどんこ病・黒星病・輪紋病	アンピルフロアブル	1,000 倍	100 m l	7日前	3回以内	250 ℓ	
			黒星病・炭疽病・褐色斑点病・赤星病 心腐れ症（胴枯病菌）・黒星病	チオノックフロアブル	500 倍	200 m l	30日前	5回以内		
			ハマキムシ類、ハダニ類 シンクイムシ類、ナシチビガ アブラムシ類、カメムシ類	テルスター水和剤	1,000 倍	100 g	前日まで	2回以内		
	7	落花7日後	赤星病・黒星病・黒斑病	カナメフロアブル	4,000 倍	25 m l	前日まで	3回以内	250 ℓ	1. 黒星病防除の重要な時期であるから適期を逃さず散布する。
			黒星病・炭疽病・褐色斑点病・赤星病 心腐れ症（胴枯病菌）・黒星病	チオノックフロアブル	500 倍	200 m l	30日前	5回以内		
	8	落花14日後	赤星病・疫病・褐色斑点病・黒星病 黒斑細菌病・黒斑病・炭疽病 心腐れ症（胴枯病菌）・輪紋病	デランフロアブル (劇)	1,000 倍	100 m l	60日前	4回以内	300 ℓ	
ケムシ類・シンクイムシ類 アブラムシ類・カメムシ類			スタークル顆粒水溶剤	2,000 倍	50 g	前日まで	3回以内			
9	5月下旬	アブラムシ類・カメムシ類・ハダニ類 シンクイムシ類・チャノキロアザミウマ	アーデントフロアブル	2,000 倍	50 m l	前日まで	3回以内	300 ℓ	1. 薬剤散布の効果を高めるために、不用な新梢はかきとる。 2. ニセナシサビダニの発生が見られた場合、1000～2000倍ダントツフロアブル（収穫14日前/1回） で単用散布を行う。 ※ 推奨葉面散布石灰資材例：ハイカルティ、ストビットII 等	
		黒星病・炭疽病・褐色斑点病・赤星病 心腐れ症（胴枯病菌）・黒星病	チオノックフロアブル	500 倍	200 m l	30日前	5回以内			
10	6月上旬		展着剤(ハイテンパワー)	5,000 倍	20 m l			300 ℓ	1. 梅雨期なので時期が遅れないように晴れ間をみて散布する。 2. この回以降、ダニ剤を散布する場合は草刈りを散布前（3～5日前）に行ってから実施する。	
		黒星病・黒星病・輪紋病・心腐れ症 褐色斑点病・炭疽病	ファンタジスタ顆粒水和剤	3,000 倍	33 g	前日まで	3回以内			
		アブラムシ類・チャノキロアザミウマ	ウララDF	2,000 倍	50 g	14日前	2回以内			
11	6月中旬	黒星病・輪紋病・赤星病	オーソサイド水和剤80	600 倍	166 g	3日前	9回以内	300 ℓ	1. この回以降、ダニ剤を散布する場合は草刈りを散布前（3～5日前）に行ってから実施する。	
		ケムシ類・シンクイムシ類	サムコルフロアブル10	5,000 倍	20 g	前日まで	3回以内			
		ハマキムシ類・ヒメボクトウ ハダニ類	スターマイトフロアブル	2,000 倍	50 m l	前日まで	1回			
12	6月下旬 (袋かけ後)		展着剤(ハイテンパワー)	5,000 倍	20 m l			300 ℓ	1. 黒斑病防除の重要な時期なので、防除を徹底する。 2. 徒長枝整理と摘芯を行って、薬剤がしっかり届くようにする。 3. WDG剤はさらさらとゆっくりとタンクの水に投入すると溶けやすい。一度にとぼっと入れると固まるので注意。	
		黒星病・黒斑病・輪紋病 炭疽病・うどんこ病	ナリアWDG	2,000 倍	50 g	前日まで	3回以内			
		シンクイムシ類・カメムシ類 コナカイガラムシ類・(アブラムシ類)	アクタラ顆粒水溶剤	2,000 倍	50 g	前日まで	3回以内			
13	7月上旬	黒星病・黒斑病・輪紋病・うどんこ病	ヘルコート水和剤	1,500 倍	66 g	14日前	5回以内	300 ℓ	1. シンクイムシの被害果は摘除し、6日以上水浸して完全処理する。 2. 輪紋病のいぼ皮病斑が枝幹部に密生している時は、7月中旬までに、削り取り直後にトップジンMペースト (3回以内)を原液塗布し病幹部を被覆する。	
		アブラムシ類・ハダニ類 シンクイムシ類	ロディー水和剤 (劇)	1,000 倍	100 g	前日まで	2回以内			
14	7月中旬	黒星病・輪紋病・黒星病・赤星病	スコア顆粒水和剤	2,000 倍	50 g	14日前	3回以内	300 ℓ	1. 高温乾燥期に入り葉害をおこしやすいので、これ以降は夕方涼しくなってから薬剤散布する。	
		ハダニ類	マイトコーネフロアブル	1,000 倍	100 m l	前日まで	1回			
15	7月下旬		展着剤(ハイテンパワー)	5,000 倍	20 m l			300 ℓ	1. カメムシ類が見られる場合は、ダントツ水溶剤の倍率を2,000倍にして散布する。（収穫前日/3回以内）	
		黒星病・黒斑病・輪紋病・うどんこ病	ヘルコート水和剤	1,500 倍	66 g	14日前	5回以内			
		シンクイムシ類・アブラムシ類 カメムシ類・ケムシ類	ダントツ水溶剤	4,000 倍	25 g	前日まで	3回以内			
16	8月初旬	ハダニ類	展着剤(ハイテンパワー)	5,000 倍	20 m l			400 ℓ	1. 散布は、日中の高温時を避けて散布するように心掛ける。 2. アブラゼミ・シンクイムシ類の発生が懸念される場合は、1,000倍アグロスリン水和剤(劇)（収穫前日/3回以内） を散布する。但し浸透移行性が弱いため、ムラなく葉裏まで十分に散布する。	
			コロマイト水和剤	2,000 倍	50 g	前日まで	1回			
特別	8月初旬 ～中旬	うどんこ病・黒星病・(胴枯病) 心腐れ症(胴枯病菌)・輪紋病	スクレアフロアブル	2,000 倍	50 m l	前日まで	3回以内	300 ℓ	1. 黒星病の発生が懸念される場合は散布する。	
17	8月中旬 (時期厳守)		展着剤(ハイテンパワー)	5,000 倍	20 m l			300 ℓ	1. 品種ごとの収穫開始時期を考慮し、各薬剤の総使用回数や収穫前使用日数を厳守する。	
		ハマキムシ類、ハダニ類 シンクイムシ類、ナシチビガ アブラムシ類、カメムシ類	テルスター水和剤	1,000 倍	100 g	前日まで	2回以内			
特別	8月中旬 ～9月上旬	ハダニ類 ニセナシサビダニ	ダニゲッターフロアブル	2,000 倍	50 m l	前日まで	1回	300 ℓ	1. ハダニ類の発生が多い圃地では散布する。	
特別	9月上旬	シンクイムシ類・アブラムシ類 カメムシ類・ケムシ類	ダントツ水溶剤	2,000 倍	50 g	前日まで	3回以内	300 ℓ	1. シンクイムシ類対策。晩生品種（あきづきや南水など）がある場合は、幸水と豊水の収穫の間にこの防除を実施 する。幸水などの収穫が終わった圃場にも散布する。（そちらにも対象害虫がいるため）	
18	10月上旬 (収穫後)		展着剤(ハイテンパワー)	5,000 倍	20 m l			300 ℓ	1. 黒星病の発生が多かった圃地では、越冬病菌の密度を下げるため被害葉は集めて土中深く埋める。	
		黒星病・黒斑病	オキシラン水和剤	600 倍	166 g	3日前	9回以内			
特別	10月中旬 ～下旬	枝枯細菌病・黒星病・黒斑病 輪紋病	ドキリンフロアブル	1,000 倍	100 m l	3日前	9回以内	300 ℓ	1. 黒星病の発生が多い圃地では、翌年の伝染源になるりん片への感染を防ぐため、 収穫後から10月下旬まで、上記のオキシラン水和剤と合わせて2回の防除を実施する。	

ラベルを必ず確認し、登録内容（倍率、収穫前日数、回数など）を遵守してください！また器具の洗浄は十分に行ってください。

暦にない薬剤を使う場合は必ず指導員に相談してください。

## 住宅地における農薬使用について

農薬使用者は住宅地において農薬の飛散防止措置を講ずるよう努めなければならないと規定されています。これを受けて、公共施設・住宅地に近接する場所における病害虫の防除については

極力、農薬散布以外の方法をとってください。ただし、やむを得ず農薬を使用しなければならない場合は注意事項（散布に関する事前の周囲への周知、飛散防止のための天候や時間帯に関する配慮）

等の遵守に努め住民の健康に被害を及ぼすことのないように最大限配慮するようにしてください。